

中小企業が取り組む 環境に配慮したモノづくり



Contents

- ・クツワ(株).....7頁
- ・クラスターテクノロジー(株).....7頁
- ・甲子化学工業(株).....8頁
- ・(株)ナダヤ.....9頁
- ・(株)福井プレス.....10頁

カーボンニュートラルへの取り組み

2020年10月、政府は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指すことを宣言した。「排出を全体としてゼロ」というのは、二酸化炭素等の温室効果ガスの「排出量」から植林、森林管理などによる「吸収量」を差し引いて、実質的にゼロにすることを意味している。この実現に向けて世界が取り組みを進めており、120以上の国と地域が「2050年カーボンニュートラル」という目標を掲げているところである。

わが国においても、カーボンニュートラルへの挑戦が、産業構造や社会変革をもたらし、大きな成長につながるという発想で、新たな地域の創造や国民のライフスタイルの転換など、カーボンニュートラルに向けた需要創出に力を入れている。企業にとっても、SDGsが経済活動に浸透していく中、「環境への配慮」は看過できない重要なファクターとなっている。

環境に配慮したモノづくり

従来のモノづくりは「品質・価格・納期」が重要な課題であったが、時代背景を鑑みるに、これらに「環境への配慮」を加えざるを得ない状況にある。すなわち環境は、すでに市場メカニズムの中に組み込まれており、製品の選択や企業評価の条件とさえなっている。

環境に配慮したモノづくりとは、3R (Reduce: 減少、Reuse: 再使用、Recycle: 再資源化) を具現化する取り組みともいえ、環境負荷低減のために、製品の材料調達から廃棄までを考えた循環型製品ライフサイクルの実現が重要である。また、企業にとっても社会全体の環境負荷を低減し、資源効率を向上させることが製品・サービスの付加価値向上にも繋がる。

このような潮流を捉えて「環境」

この続きは会員事業所
のみご覧いただけます